

大修館英語通信

What's New!

4

April 2023

No. 5

特集

ここから始める SDGs×英語の授業づくり

知っておきたい SDGs の基礎知識と授業づくりのポイント

題材に応じた SDGs 目標段階の設定と授業実践例

SDGs を題材とした英語授業実践とその魅力—より良い未来のために

【月刊『英語教育』記事・再録】 題材を SDGs 的視点でとらえ、リアルな社会課題の

解決につなげる—プロジェクト型学習の授業実践

「SDGs の世界へようこそ—わくわく図書を活用し、課題探求型学習に挑戦しよう」

上山晋平…3

市川裕理…6

石森広美…8

福田理奈…12

秋山容洋…14

連載

巻頭エッセイ「わたしの英活」 中村邦生…2

見たかもしれない風景 河西 遼…15

SLA 研究にもとづく英語学習の動機づけのすすめ 廣森友人…16

Question Box : 英文法の「なぜ」? 朝尾幸次郎 / Let's Cook! Bulgogi…17

教育ニュース / ホット1コマ あずきみみこ…18

大修館 BOOKSHELF 阿野幸一・太田 洋 / 白井恭弘 / 岡田圭子…19

SDGs が教室にやってきた



上のQRコードから
[大修館書店 英語教科書特設サイト]
にアクセスできます。

わたしの英活

ときには古いジョークの出番もある？

中村邦生 (作家・大東文化大学名誉教授)



©読書人

コミュニケーションのなごやかな進行となれば、ジョークが効果的な役割をはたすことは、誰でも自覚している。笑いのはじけた瞬間の痛快さは格別な体験だ。しかし、相手と場所の問題もあり意外に難しい。タイミングを外した不発のジョークほど、ばつが悪いものはない。

どうするか？ とりあえず、ジョークのストックを持っておく。新鮮味のあるジョークにこしたことはないが、生きのよいものは、イワシと同じで腐りも早い。そこで出番となるのが古典的なジョークだ。「ポピュラーな笑い話ですけど」と、さも当たり前のように切り出してみる。典拠とか事の真偽など、あえて深追いしない。何度聞いても笑いだすところが、古典たるゆえんであり、意外にも会話に活気をもたらしたりする。

ずいぶん前のことだが、東京新橋のレストランで、私の遭遇した英語メニューの誤記の例。Dessert が Desert, Sandwich は Sandwitch と表記されている。なるほど、「砂漠」ならば、「砂の魔女」もいるだろう。はからずも筋の通った話になったわけだ。

ジョークの名作はどうしても、ネタが下の方に寄りがちで公開に躊躇する。それでもぎりぎりの一例を示せば、前置詞 on にまつわる教訓話がある。1960年代初め、東海道新幹線の開通直前のまさしく古典的な話だ。

英語力に自信があったはずの某代議士、夜行寝台車で

関西遊説に向かうところだった。客室に入ると自分は上段、下段はアメリカ人とおぼしき若い女性だった。礼を尽くそうと、かの代議士先生はこう許しを乞うた。“May I sleep on you?” on が「接触」を意味するなど、本誌の読者には野暮な説明だろう。

代議士つながりで、あまりにも有名な「伝説」として、某国某政治家による訪米時の挨拶がある。事前に教わった定型文を言い間違えたのだ。“How are you?” と言うべきところを、“Who are you?” と。相手はクリントン米大統領。すかさず “I’m Hilary’s husband. And you?” と返した。すると某政治家、“Me too.” と応じた。日米和合の歴史的冗句の誕生！ ただし、件の政治家からは覚えのない話だと抗議が出た経緯があり、取り扱いにご注意。

古典中の古典としては、アメリカのボストン美術館在職中の岡倉天心のエピソードがある。初対面の人にこう訊ねられたのだ。“Which nese are you, Chinese or Japanese?” さすがは天心、機転のきいた応答をした。“Which key are you, donkey, monkey, or Yankee?” と。donkey, monkey の含意を踏まえての応酬だ。

この種のジョークはいったん知るとつい人に話したくなり、人から人へ伝播する。あげくは教えてくれた当人に言って恥をかく。どちらの立場であれ、「これって、不滅の親父ギャグ (Dad joke) だね」とか言っておこう。

Profile

中村邦生 (なかもら くにお)

作家・大東文化大学名誉教授。主著に『転落譚』(水声社), 『くつまずき』の事典』(大修館書店)など。新刊に、神田川をめぐる都市幻想譚『幽明譚』(水声社, 書影左), 断章小説『ブラック・ノート抄』(水声社, 書影右)がある。後者には、「英文法例文による小説選」, 「センテンスを喰う」と題する幻想掌編が収録されている。現在、「変声譚」を連載中(「コメット通信」)。



知っておきたい SDGs の基礎知識と授業づくりのポイント

上山晋平 (かみやま しんぺい)
福山市立福山中・高等学校教諭



1 はじめに

学校や授業で SDGs を扱う動きが広がっています。なぜでしょうか。そしてどう取り入れると効果的でしょうか。

私の勤務校では、SDGs や SDGs 教育 (ESD: Education for Sustainable Development [持続可能な開発のための教育]) を中心に学校改革 (教育内容づくり) を進めてきました。その結果、ESD は、学習指導要領の目指す方向性との共通点が多く、「地域や社会の持続可能性の進展」に加え、「生徒の資質・能力向上」や「教育の質の向上」という利点があると分かりました。学校全体のこうした取り組みにより、勤務校は2019年に ESD 大賞の最高賞である文部科学大臣賞を受賞しました。

私は校外外で SDGs 教材や指導法・評価の開発・教員研修などを担当しています。また、ユネスコでの Happy Schools Project (ユネスコ・バンコク事務所指定) の発表や、文科省「ESD 推進の手引」の改訂に携わらせていただきました。こうした経験をもとに、SDGs を学校と授業に取り入れるポイントをできるだけ具体的に考えていけたらと思います。

2 What? SDGs とは何か ~ SDGs の基礎知識 ~

まずは、SDGs の基礎知識 (SDGs とは何か) を共有していきましょう。

基礎知識① SDGs とは?

SDGs とは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略です。国連193か国の合意による2016~2030年までの国際目標で、17の目標 (図1) と169のターゲットからなります。「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

基礎知識② ターゲット

SDGs の各目標には、「より具体的な目標」(ターゲット) が書かれています (4.1, 4.2 など)。目標4 (質の高い教育をみんなに) のターゲット4.7は ESD で、「全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする」とされています。学校教育には、「持続

可能な社会の創り手の育成」を通じて、SDGs の全目標の達成に寄与する重要な役割が期待されているのです。

基礎知識③ 全員がアクティブメンバー (教員、生徒も)

SDGs は先進国、途上国を問わず全ての国の目標であり、教員、生徒を含む地球上の全員が SDGs を推進するメンバーです。

基礎知識④ 「3つの要素」の調和的解決を探る

「環境」、「社会」(人権を含む)、「経済」のバランスのよい解決を目指すのが SDGs です。授業で思考・判断・表現する際も、創造力やイノベーションを発揮して、3つ全てを大切に解決策を考えましょう。

基礎知識⑤ SDGs は「変容・変革志向」

SDGs を含んだ国連文書の正式タイトルは、『Transforming our world: ...』(我々の世界を変革する: ...) です。「Transforming」は「変革・変容」で、SDGs の本質とも言われます。目指すのは、「改善」や「変化」でなく、世界の抜本的な変化ということです (既定路線では問題は解決しない)。

ESD は、SDGs を自らの問題として主体的に捉え (自分事)、身近なところから取り組み (Think globally, Act locally)、問題解決につながる「価値観や行動」の変容をもたらし、そうした意識を持つ人やリーダーを増やし、意思決定に反映し、社会システムを変革することまでが視野に入っているのです。

3 Why? 「なぜ」SDGs を学校教育に取り入れるのか

それでは、「なぜ」学校教育でこの SDGs を扱うのでしょうか。平成29・30・31年改訂学習指導要領には「前文」が付いています (改訂の理念を強調する部分です)。ここには、小学校、中学校、高等学校ともに、次の文言が記されています。「これからの学校には、(中略) 持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」。2020年代の学校教育の目的が、「持続可能な社会の創り手の育成」と明記されているのです。田中 (2020) は、「学習指導要領



図1 SDGsの17の目標

で育てるべき人間像が示されたのは70年ぶり」で、「SDGsを含む教育内容が2020年代の学習で最重点項目となったと言っても過言ではない」としています。

この「持続可能な社会の創り手を育成」する教育がESDです。ESDについて、末松文部科学大臣(当時)は、『「持続可能な社会の創り手」の育成を行うESDは世界の標準となっていく教育といえます』と明言しています(2021年11月27日「第13回ユネスコスクール全国大会 ESD研究大会(Web開催)」)。

一見捉えにくい感じもするESDですが、文科省(2021)の説明は次の通りです。「地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身につけるための教育。(中略)新しい学習指導要領に基づき、これからは、全ての学校においてESDが推進される必要がある」。

目指すのは次のような姿です(佐藤・広石, 2020参考)。

- ・SDGsの背景と文脈を理解し、俯瞰的な視点を持つ人
- ・自分の変化が世界の変化とつながっていると認識する人
- ・資質・行動様式を実践しながら身に付ける人
- ・他者や共感、関係性を大切に物事を進める人
- ・企業、NGO、ICTなど多様な動きを積極的に活用する人
- ・多様な主体と協働で問題解決を進めるソーシャル・プロジェクトを通して仲間を増やし、成果を生み出す人

4 How? SDGsを「どう」学校教育に取り入れるのか

(1) 学校全体(ホールスクール)でSDGsに取り組む

では、こうした新しい教育とも言われるESDは、どう行えばよいのでしょうか。これまでの知見から学びましょう(聖心女子大学・永田佳之先生の発言を基に作成)。

- ① 目指すのは、「持続可能で幸せな世界・社会の創造」。(各教科内容だけでなく、先の共通目的を目指す)
- ② 目標は、価値観・行動・生活様式の「変容」。(一斉授業などによる知識の獲得だけでは変容には不十分)
- ③ 学習法は多様。(知識伝達型だけでなく批判的思考を含む参加型・問題解決型学習等)
- ④ コンテンツは、地域にも見出せる「地球規模の課題」。
- ⑤ 学校では「ホールスクール・アプローチ」(各教科の授業だけでなく学校全体で取り組む)が有効。

上記⑤のように、SDGsは学校全体(ホールスクール)で取り組むのがよいとされています。生徒が意識し、考え、実行するチャンスが増えるからです。たとえば、次のように、学校内外の多くの場面でSDGs的な要素を組み込むことができます(宮城教育大学・市瀬智紀先生の発言を参考に作成)。

各教科	SDGs学習, SDGsと単元との関連付け
生徒会活動	SDGs委員会やボランティア部
特別活動	修学旅行でのSDGsの学習や体験, 議論
探究	SDGsに関連する探究プロジェクト
教室(担任)	避難訓練や校外活動への積極参加の奨励
地域連携	地域・企業連携, ボランティア, 講演
学校環境	太陽光発電, コンポスト, 節水・節電
職員室	紙の有効活用, 割り箸削減, ケアの心
研修	ESDの研修, 研究, 会議
学校運営	目標や資質・能力, 経営計画へのSDGs要素の追加
地域全体	教委や都市全体でSDGs未来都市やESD

(2) 授業でSDGsに取り組む

次に、表の最上段にある「各教科」において、どのようなSDGs的な取り組みが可能なのかを見ていきましょう。

取組例① SDGsについて学ぶ

SDGsの17目標や関心のある目標を各自で調べ発表し合い理解を深めましょう。ターゲット一覧は、環境省の資料が秀逸です(「SDGsターゲット 環境省」で検索)。

取組例② SDGsとの関連内容(単元)を確認する

学習指導要領には、SDGs・ESDとの関連項目が多くあります。外国語なら「コミュニケーション」(目標17)や「環境問題」(目標14・15)、理科なら「エネルギー」(目標7)



図2 取組例④で生徒が作成したポスター

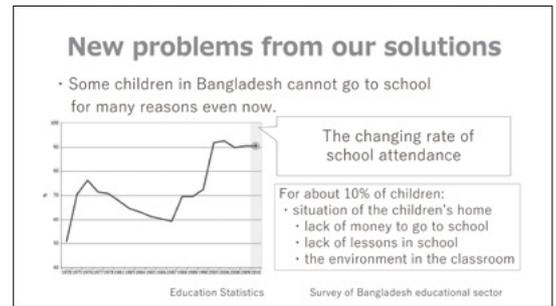


図3 取組例⑤での探究の成果の発表用資料

や「海洋保護」(目標14)、社会なら「経済」(目標8)、保健・体育なら「健康・福祉」(目標3)などです。常に新規授業開発が必要なわけではないので、ご安心ください。

取組例③ 単元を「目標」「ターゲット」と関連させる

SDGsを授業で扱う際は、単元(トピック)とSDGsの目標とターゲットとの関わりを確認します。これで教科の内容と世界の課題につながります。以下は、例です。*

聞くこと	「水とトイレ」(目標6)や「エネルギー」(目標7)に関する文章を聞いて考える
読むこと	「貧困」(目標1)や「差別」(目標10)撲滅の英文を読み、問題について考える
話すこと	「経済成長」(目標8)や「持続可能な産業」(目標9)について発表・議論する
書くこと	「学習機会の拡大」(目標4)や「ジェンダー平等」(目標5)の題で作文を書く
他の例	「健康」(目標3)に関する暗唱コンテスト 「消費・生産」(目標12)に関する映画

取組例④ 授業を「探究型」にする

単元をSDGsに関連させるだけでは、生徒の「意識や行動変容」につながらないかもしれません。そこで「探究型学習」(課題発見・解決型)を取り入れ、深い学びに発展させる方法があります。たとえば、田中(2021)は、10個の「探究的な学習の特徴」から3~5個を取り入れることで、単なる調べ学習が、深い学びとしての探究的な学習に発展していくと述べています。例をあげると、「問題意識を持ち、自ら問いを設定する」、「課題解決や仮説検証を行う」、「主体的な資料の探索と検証をする」、「自己や社会と関連付ける」などを単元に組み込むのです(学期に1~2回から始める)。

たとえば、地雷や環境の単元を扱ったら、内容理解で終わらず、数時間、探究的な学習過程をプラスします。「本質的な原因」、「解決策」、「自分は何をする(した)のか」を生徒が探究し、プレゼン・行動化するのです。大切なのは、他国の問題でもどう「自分事化」するかです。それには、「その国を自分の国と考える」、「被害者を自分や家族と考える」、「関わりやできることを考える」などが有効です。勤務校では、地雷の単元後、「生徒会による地雷除去の募金活動」が行われました。教科書の学びがアクションにつながったのです。

ポイントは、「学習内容をSDGsに関連させる」だけでなく、「目的を意識する」(持続可能な社会の創り手の育成)、「ESDで求められる資質・能力を育成する」(批判的思考力、協力する力など)、「参加型・問題解決型学習を取り入れる」(考える、行動する、参加する、創る、解決するなど)などです。また、特定教科だけでなく「教科横断」で、「当事者意識」、「社会との関わり」を意識すると、「社会課題の解決力」をもった「持続可能な社会の創り手」の育成につながります。

取組例⑤ 探究でSDGsを扱い、成果を英語授業で発表する

教科の授業だけでは、課題解決に向けた探究時間が十分ではない場合は、総合的な探究の時間で行った探究の成果を、英語授業で発表する方法もあります。たとえば、インバウンド観光の促進を目的に、地元の観光動画を作成し、英語の字幕を付けてSNSで発信し、世界中の視聴者から寄せられた改善点を調査し、改善した取り組みを発表したり、留学生や日本語学校の生徒と一緒に探究した内容を発表したりした例があります。

取組例⑥ 学校全体でSDGsを取り入れる

SDGsは自らの授業に取り入れるだけでなく、ぜひ「学校全体」(ホールスクール)での取り組みに広げましょう(4(1)表参照)。ホールスクール・アプローチは古くて最先端の課題です。学校全体でのESD実践例(約160頁)は、福山市立福山中・高等学校のHP(<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/kou-ichifuku/>)からご覧いただけます。

■参考文献

- 上山晋平ほか(2022)『4 達人が語る! 至極の英語授業づくり&活動アイデア』(明治図書)
- 佐藤真久・広石拓司(2020)『SDGs人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ』(みくに出版)
- 田中治彦(2020)「SDGsで持続可能な社会の創り手を育てる教育を」『新教育ライブラリ Premier Vol.1』(ぎょうせい)
- 田中博之編著(2021)『月刊高校教育2021年12月増刊号 高等学校 探究授業の創り方』(学事出版)
- 日本ユネスコ国内委員会「持続可能な開発のための教育(ESD)」について(<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>)
- 文部科学省(2021)『持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引』(令和3年5月改訂)

*単元を「目標」「ターゲット」と関連させ、より「高次の活動」を構想するヒントはこちら→



福山市立福山中学校・高等学校の詳しい実践についてはこちら→



題材に応じた SDGs 目標段階の設定 と授業実践例

市川裕理 (いちかわ ゆり)
豊田工業高等専門学校准教授



SDGs を扱う授業で目指したいこと

SDGs を扱う授業で目指すべきところは、題材（トピックやイシュー）の「自分事化」である。SDGs の特徴は地域社会や国際問題を理解するだけではなく、よりよい社会を実現するために、具体的な行動変革を求める点にある。英語の教科書でも SDGs が多く取り上げられるようになったが、本文の読み取りに終始するのではなく、題材を通して学習者の思考をどのように深めていくかを、まずもって考えたい。

とはいえ、全ての題材を「自分事化」まで持って行くことは、授業時間を考えるとあまり現実的ではない。また、何でもかんでも「自分に何ができるかを考えましょう」という問いかけになってしまうと十分とはいえないだろう。例えば環境問題に対してなら、「エコバッグ持参」「エアコンを消す」「リサイクル」など予定調和的な答えしか返ってこない可能性が高いからだ。

そこで提案したいのは、①「知る」、②「つなげる」、③「自分事化」という3つの「題材に応じた SDGs 目標段階の設定」である。これは学習者の思考を深め、主体的で協働的な学習へと導くことを目指すものである。SDGs を学ぶというより、題材を通して何を学ぶかが肝心で、何を英語で表現するのかという内容と言語のコンビネーションが問われる。

①「知る」段階……題材例：海洋マイクロプラスチック問題



認知次元* 「記憶」「理解」 「応用」 →科学的思考	題材の扱い 問題の所在、取 り組みを理解	英語による表現力 データの読み取 り、質疑応答
--	-----------------------------------	--------------------------------------

国際問題や SDGs に関する題材を扱うとき、その問題自体を授業で初めて知る学習者も多く、「まずは問題について自分で調べて知ることが大切だと思った」「問題について深く知った上で、自分に何ができるかを考えたい」という感想

を得ることがままある。この感覚は大事にしたい。「知る」ことは学びの第一歩だ。教員は、「何をどこまでどうやって『知る』のか」ということを、学習者に合わせて考えたい。

例えば、海洋マイクロプラスチック問題が題材の単元では、「問題の所在」「その原因」「解決への取り組み」と焦点を整理し、データを使って物事を理解する方法を全体で学習する。その後同じ要領で、海洋国の抱える問題について調べ学習を行う。サンゴ礁（オーストラリア）、海面上昇（オランダやツバル）、水害（インドネシア）など、問題ごとに教員がある程度“当たり”を付けて国を割り振り、調べ学習後に情報交換会を設ける。教科書記載の情報を学ぶことも大切だが、学習者が自ら調べることで、問題の見方を学び、事実についてデータを使って思考するスキルを養うことができる。

②「つなげる」段階……題材例：パーム油 プランテーションをめぐる環境問題



認知次元 「分析」「評価」 →批判的思考	題材の扱い ファクトチェック、 ディベート	英語による表現力 判断の根拠の提示、 意見の表明
-----------------------------------	------------------------------------	---------------------------------------

一つの問題はたいてい他の問題と関連しており、視点を変えれば全く違う問題になることがある。物事を違う視点からとらえ、判断に落とし込んでいくあり方は、共創社会を目指す SDGs の根幹であると私は考えている。『FACTFULNESS (ファクトフルネス)』（ハンス・ロスリング著、日経 BP、2018) という本がベストセラーになったが、ネット社会におけるフェイクニュースを見分ける目を養うことも含めて、情報を多面的に判断する術を身に付けさせたい。

例えば、教科書で、パーム油プランテーションをめぐる諸問題について、架空の食品会社、環境保護団体、地元の人々がディベート風にそれぞれの主張を行う題材がある。「教科書の記述は、正しいと思いますか」と尋ねると、多くの学習

者から「はい」という答えが返ってくるが、実はそうではない。

それぞれの主張のファクトチェックを行い、判断の根拠を示す。同時に様々な問題が結びついていることを認識したい。(食品会社が健康的であると主張するパーム油は、高温処理されたときの危険性が指摘されている。生活レベル向上を主張する地元民もいるが、労働搾取や森林伐採などプランテーションの負の側面は知られているところだ。)その上で、自分はどの主張に共感するかを考える。個人の主張をいったん脇に置いておき、物事を俯瞰的に見ることを学ぶときに、ディベートの手法は大変有効である。

③「自分事化」の段階……題材例：アパルト ヘイト廃止後の民族融合への道



認知次元 「分析」「評価」 「創造」 →創造的思考	題材の扱い 題材の台本化、 英語劇	英語による表現力 文脈に応じた英 語表現の模索
---	--------------------------------	--------------------------------------

直接体験することができない遠い国の話や過去の出来事を、自分に引き寄せて考えられる方法の一つが英語劇である。これは、既存の台本を演じるのではなく、教科書をベースに調べ学習やディスカッションを行いながら、台本をオリジナルで作成し演じるという試みである。

例えば、1995年のラグビー・ワールドカップ。アパルトヘイトの廃止に伴い南アフリカが初めて開催国になり、そして初優勝を果たした奇跡のような出来事を取り上げる単元がある。題材として非常に良いが、説明文を読むだけではその背景や人々の感情を深く読み取ることが難しい。そこで、ラグビーに燃える白人たち、ラグビーをアパルトヘイトの象徴としてみる黒人の気持ち、“One Team One Country”を訴えるマンデラ氏など、それぞれの立場を想像してセリフを考えさせ、各グループで約5分の劇を作成した。

しかし、難しいトピックだけに、使用する英語も難しくなる。今自分たちが持っている語彙で、聞いてわかる表現に修正する工夫を施した。グループで話し合いと練習を重ね、英語を表現の道具として用いる様子が見えかけた。

英語授業では、伝わりやすい表現を自ら考える機会というのはあまりない。習った表現をどのような文脈で用いるかを考え、それに感情を交えて、聞いている人に理解してもらえ

るように伝えるという活動は、劇活動ならではの特徵である。

評価（教員・学習者による評価、次へ活かす評価）

評価には、教員による学習者の評価と、学習者の自己評価があり、どちらも授業改善につなげていくべきものである。

私の場合、SDGsを授業で扱うときには、グループで取り組むことを基本とするPBL（プロジェクト型学習）を行う。そこで作られるプロダクト（成果物）はグループワークの成果であるため、教員の評価はグループごとに行う。一方で、活動を通して学習者がどのように変容したかというプロセスを、教員と学習者双方がとらえることも必要である。グループワークでは役割分担と進捗状況の把握が成功の鍵となる。よって、各段階で個人としての貢献と、グループとしての達成度を振り返る作業は必須である。この場合、個人の振り返りは、学習者の自己評価であるが、グループの進捗状況については、教員の評価に含むことは可能であると考えられる。さらに、個人の振り返りとグループ進捗状況は、学習の評価として次回からの活動を含めて授業改善につなげたい。振り返りの内容を紹介したり、学習者間で共有することもお互いの刺激になり、効果的である。

まとめ——教員の仕掛け

SDGsは、個人の行動規範の変革によって、世界をよりよき方向（持続可能な社会）へと導くことが最終目標である。授業では、「教科書を学ぶのではなく、教科書で学ぶ」という基本に立ち返りたい。何を目標とするのか。どんな活動を行うのか。教員はどのような働きかけを行うのか。「教える」というよりは、「仕掛ける」感じである。学習者は、学びたいと思えば“勝手に”学ぶ。教員の役割は、その環境を整え、知的好奇心に火を付けることである。目の前の学習者に合わせて、授業をカスタマイズすること。学習者の変容と成果を共にすること。教員としての何よりの楽しみがそこにはある。

*認知次元：ブルームのタキソノミー(改訂版; 下記の書籍)を参照。
Anderson, L. W., & Krathwohl, D. R. (2001). *A taxonomy for learning, teaching, and assessing : A revision of Bloom's taxonomy of Educational Objectives*, Abridged Edition. Boston, MA: Allyn and Bacon.

SDGs を題材とした英語授業実践とその魅力 ——より良い未来のために

石森広美 (いしもり ひろみ)
北海道教育大学准教授 (元 宮城県仙台二華高等学校教諭)



育てたいコミュニケーション能力と小中高の接続

2020年から小学校で中学年の「外国語活動」と高学年の教科「外国語科」が始動し、小中高を通した10年間の外国語教育への展望が必要となった。小中高を貫く目標、それは「コミュニケーション能力」の育成である。

近年、コミュニケーション能力の再定義が試みられている。村野井 (2006) は、コミュニケーション能力とは、従来の「文法能力」「談話 (ディスコース) 能力」「方略能力」「社会言語能力」に加え、「認知能力」や「世界のさまざまな事柄についての知識・考え」「姿勢・態度 (価値観, 人間性等)」をも含むものであり、それらを包括する幅広い概念として捉えられるとしている。さらに、Byram (2020) も指摘するように、多様化が進む多文化共生社会においては、世界の課題を理解し、互いの文化や価値観を尊重した上でコミュニケーションを行う総合的な力、すなわち異文化コミュニケーション能力も求められている。

以上を踏まえて、外国語教育で育てるべきコミュニケーション能力について検討すると、以下のようにまとめることができる (図1)。



図1 グローバル時代のコミュニケーション能力 (村野井 (2006) を参考に筆者作成)

小中高の接続と SDGs 実践の意義

そうしたグローバル時代のコミュニケーション能力を育成する上で、鍵となるのがSDGsである。SDGsは、世界の様々な地域や国々が共通して抱える課題群である。SDGsへの認識を深め背景知識や予備知識を備え、自分の考えを深めることで、「外国語 (英語)」を用いてコミュニケーションを図りながら、相手を思いやり、共感したり、問題の解決策を一緒に考えたりすることが可能となる。

また、英語教育の小中高の接続を考える際に、扱う「話題」や「内容」も段階を追って、身近なものから社会的なテーマや地球規模の課題へと拡張していく (図2)。その際にも、地域の問題からグローバルな問題までを包括し、両者の関係性を問うSDGsの視点は有効である。また、SDGsを題材にすることにより、教科の分断を解き、学びを統合させる機能もあることから、積極的に取り上げる価値がある。

SDGs を題材にした英語の授業実践例

筆者はこれまで25年間にわたって宮城県の公立高校で教鞭をとっていたが、常にグローバル・イシューやSDGsを積極的に英語の授業に取り入れるよう心掛けていた。そこには、決して「無理」や「苦しさ」はない。現在の英語の教科書の題材は非常に多彩なグローバル・イシューが扱われており、教師の着眼と授業構想力により、少し労力を割き工夫を施すだけで、しっかり4技能を伸ばさせつつ、生徒の世界についての知識や考えを深めることが可能となる。

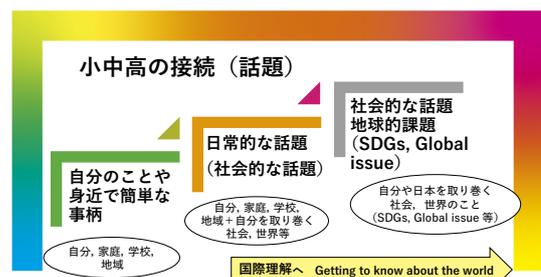


図2 「話題」を軸にした小中高の接続のイメージ (筆者作成)

ここでは、筆者が2022年3月まで勤務していた宮城県仙台二華高等学校での実践例を紹介する。本校は県内屈指の進学校であり、グローバル教育にも注力している。近年では、「総合的な探究の時間」に行う「課題研究」をSDGs学習と連動させたり、修学旅行（コロナ禍以前はシンガポール、コロナ禍以降では沖縄）の指導にもSDGsの視点を入れたりするなど、SDGs学習にも取り組んでいる。本稿では、英語の授業に焦点化して、取り組み事例を紹介する。

実践例① 地球市民意識を育むコミュニケーション英語の授業（実践者：筆者）

平和で持続可能な未来社会の構成員となる地球市民を育てるためには、普段の授業でいかに工夫し、実践を積み重ねていくかが鍵となる。問題提起、考えさせる発問、教科書の内容を深める活動、意見交換、フィードバック等が気づきを促し、世界への目を開かせる契機になる（石森，2019）。筆者の授業蓄積から、一例を紹介する（SDGsの視点には単元の内容と関連の深い目標を配置したが、実際には多くの目標が相互に複雑に絡み合っている点に留意されたい）。

(1) マララ・ユスフザイさんを紹介する単元

SDGsの視点

目標4「質の高い教育をみんなに」

5「ジェンダー平等を実現しよう」

めあて

学校に行けない子どもの割合とその理由、就学率、教育をめぐる諸問題を理解する。また、読み書きができないことによる不利益や負の連鎖を理解する。教育における男女格差についても認識する。

授業の流れ

1. 教育をめぐるクイズ（英語版）を通して、世界の教育問題を認識させる。（クイズの例：世界中で初等教育を受けられない・修了できない子どもの割合、その原因・背景にある問題、非識字の大人の割合等）
2. マララさんのスピーチ（2013年7月12日国連演説）を聞き、印象に残った英語表現を取り上げ、その理由を英語で発表し、感想を述べ合う（グループワーク）。
3. マララさんのスピーチや識字教育が欠落したことで発生した事例についての英文を読み、教育を取り巻く諸問題を把握する。それらをグループで共有し、発表する。
4. 読み書きができないことによる不利益を想像し、グループで話し合う。クラス全体で発表・共有する。



5. すべての人が初等（基礎）教育を受けるにはどうすればよいか、解決策を考え、グループで話し合った後、クラス全体で発表・共有する。

※その後、振り返りとして授業を通しての気づきを個人で記録させてもよい。（気づきの例：教育の重要性を痛感した、読み書きができないことがいかに不利益をもたらすか理解できた、女子の方が識字率が低くジェンダー問題も関係することがわかった、等）

(2) 水問題を扱う単元

SDGsの視点

目標6「安全な水とトイレを世界中に」

めあて

世界の水不足を理解するとともに、それが自分たちの生活と関係があることを知り、ライフスタイルを見直す。

授業の流れ

1. 教科書本文に示された世界の水不足について、各自インターネットや書籍を用いて調べ学習をさせ、基礎知識を得させる。安全な水にアクセスできない人の割合について、全体で共有し学ばせる
 2. 教科書本文にあるように、日本は食料の60%を輸入に頼る世界有数の食料輸入国であることの意味を考えさせる。「バーチャルウォーター」についての理解を深め、日本が間接的に大量に水を輸入している現状を認識させる。
 3. いくつかの一般的な料理（たとえば、牛丼、チキンカレー、ハンバーグ）から一つ選び、1人分の食事にどれだけの水（バーチャルウォーターを含む）が使われているか、グループで意見を出し合いながら算出させる。
 4. 3. で提示されたデータをもとに、世界の水資源の枯渇や水問題が自分たち日本人とは無関係ではないことを理解させるとともに、生徒一人ひとりに自身のライフスタイルを振り返らせ、日常生活でできることを考えさせる。
- ※気づきの例：バーチャルウォーターについて初めて知った、普段何気なく使っている水の量に驚いた、水を大切にしなければならぬと感じた、等）



(3) 森林破壊に関する単元

SDGsの視点

目標12「つくる責任 つかう責任」

15「陸の豊かさを守ろう」

めあて

日常生活で使う・食べるものの裏側に潜むグローバル・イシューを見抜き、問題を理解する。私たちの便利な生活が世



界の様々な地域への影響の上に成り立っていることを知り、地球市民としての責任を自覚する。

授業の流れ

1. 普段食べているお菓子や加工食品等のパッケージを配り（各自、家庭から持参させてもよい）、表示されている原材料に着目する。植物油、植物油脂、パーム油の表示に目を向けさせ、近年「パーム油」の需要が増え、プランテーションが拡大している現実を知る（資料・写真等提示）。
2. パームプランテーションの拡大によって発生している問題を考え、グループごとに挙げた後、発表（例：熱帯雨林の急速な減少、生物多様性の喪失、ボルネオ象やオランウータンなどの固有種に起こっている問題、先住民の暮らしへの影響等）。（補足資料等を提示）
3. 自分たちの生活との関連を理解した後、問題解決の糸口や自分にできるアクションについて個人で考えさせる（意見交換の時間を挟んだり、ランキング形式で書かせたりしてもよい）。その後グループごとに発表し、学び合う。
4. ROSP（持続可能なパーム油のための円卓会議）についてもふれながら、「持続可能な」開発についてあらためて考察を深めさせる。

※気づきの例：毎日食べたり使ったりするものの裏側でこんな問題があったとはショックだった、自分たちと関係する問題であると自覚できた、これから何ができるかを考えていきたい、等）

* * *

これらの実践は、教科書の題材を最大限に活用し、プラスアルファの教材提示やアクティブラーニングによる活動の時間を確保することにより、学習を発展させた例である。教科書で扱われたグローバル・イシューを、「自分事」として捉えるための工夫や活動が盛りこまれている。単に情報や知識が一方提供されるだけでは、生徒の心は動かない。教室内であっても課題を自分事にするためには、何かを「体験」させ、「実感」を伴わせる工夫が必要である。また、教科書に書かれているグローバルで深い題材内容に関して、生徒たちが読んだり、聞いたり、話したり、書いたりすることによって、英語の授業において地球市民に必要な知識・技能・姿勢を育成することができる。題材の背景にある社会問題への認識を深めさせるには、時に日本語使用も認めてよいと考えるが、基本的には既習の英語表現を使って英語で行うことを推奨し、教師はその支援をする。そうすることで、SDGs 学習は英語コミュニケーション能力の育成に貢献できる。

実践例② CLIL の手法を用いた授業

（実践者：大野智彰教諭）

教科書の題材から、生徒が興味を持ちそうなグローバル・イシューを選定し、追加の資料提示を行った後で生徒に思考させ、自分の考えを英語でアウトプットさせている。その際参考にしてしているのが、学ぶ内容を重視しながら英語力を実践的に伸ばす CLIL の考え方である。たとえば、以下のような実践を行っている。

(1) 「フェアトレード」を扱う単元（コミュニケーション英語Ⅰ）

問題をより身近に感じてもらうために、生徒の関心が高い「ファッション」に着目し、発展学習として「ファストファッション」についてパワーポイントで問題提起を行った。私たちの着用する衣服の裏側で起こっている問題について情報提供し、インプットさせてから生徒に考えさせ、英語で意見交換の上、ワークシートにまとめさせた。

(2) 世界遺産にも登録されている「富士山」についての単元（コミュニケーション英語Ⅱ）

オーバーツーリズムの問題に着目し、観光旅行の光と影、そして環境問題との関連について、高校2年生の修学旅行の訪問先である「沖縄」と絡めながら考察を深めさせた。問題の理解だけでなく解決にも目を向けさせ、修学旅行で環境保護のために自分ができることについて、期末考査の一部として英語でのエッセイライティングをさせた。評価については、ルーブリックを作成し、他の英語教員とともに全員のエッセイを評価した。以下は生徒のエッセイの例である。

・Okinawa is famous for beautiful coral reefs, but, in recent years, coral bleaching is becoming a serious issue. It is caused by micro-plastics. Coral eats micro-plastics by mistake and gets sick. Then its color turns white. Many micro-plastics come from trash people throw away. Hence, I am going to pick them up on the beach. Now, I am planning an activity to clean up the beach for beautiful sea and coral reefs.

なお授業の中で、教師からは SDGs を特に明言はしていないが、全生徒が「総合的な探究の時間」で SDGs 学習を行っているため、こうした英語の授業は結果的に SDGs の実践につながっている。授業実践においては、「言語」と「内容」のバランスに注意し、両者が統合するよう配慮している。ここで注目すべきは、英語の授業実践が学校行事（修学旅行）や「総合的な探究の時間」と連動し、SDGs への意識づけがホリスティックに展開されている点である。このこと

により、真正性や自己との関連性が向上し、教育効果を高めている。

実践例③ NIE を活用した英語表現力の養成

(実践者：大槻欣史教諭)

NIE (Newspaper in Education) を推進する立場から、新聞記事を適宜授業に取り入れ、英語表現を高める素材として活用している。たとえば、最近であれば FIFA ワールドカップに関する記事の見出し「日本、ドイツを撃破」の英訳を考えさせるなど、生徒が興味を持ちそうな話題を用いて英語表現の力を養成している。「授業で生きた教材である新聞に親しませるためにはタイミングが重要」であり、また「英字新聞を使うことは敷居が高いので、日本語新聞から始めて構わない」と考えて取り入れている。

SDGs を扱う授業では、新聞をランダムに各グループに配布し、各自お気に入りの記事を探させる。その記事が SDGs のどのゴールと結びついているのかを考えさせる。この段階で生徒は自分の興味と紐づけて、SDGs を身近に捉えることができる。次に、記事の感想を英語で「つぶやき」としてワークシートに書き込ませる。生徒は互いにワークシートを交換したり「つぶやき」を書き込み合ったりする。SDGs を意識しながら、記事を仲間を紹介していく活動である。

* * *

SDGs の英語の授業への取り入れ方は画一的ではなく、むしろ教員の個性や得意分野を活かす形で行っている点が特徴的である。ただし、その手法や資料等はオープンにし、関心のある教師に共有化を図っている。

[まとめ1] 英語教育×SDGs

英語教育には無限の可能性がある。それは単なる語学学習ではないからであり、ここで紹介した実践事例はその証左であろう。英語教育で扱う話題は多岐にわたる。題材内容が発信する力をうまく利用して、グローバル時代の英語の総合的なコミュニケーション能力を涵養していきたい。

簡潔にまとめれば、英語教育に SDGs を取り入れることにより、以下のような効果が期待される。

- SDGs と英語教育を接続することで、リアルな世界の問題を意識させることができる。(地球市民意識、当事者意識の醸成)
- SDGs に関する英語で書かれた様々な資料(オーセンティックな英語教材)を授業で用いることで、リーディング

の訓練になる。(英文読解力の向上)

- SDGs に関する自分の意見、アクションプランなどを英語でまとめ、表現させ、発信させることで、表現力が向上する。(英語表現力、自己表現力の向上)

[まとめ2] 英語教育で目指したいこと

筆者は、これからの英語教育を展望する際に、次の点がポイントであると考えている。いずれも、「主体的・対話的で深い学び」を形成し、英語の授業実践における質の高い学びを実現するための要所となるものである。

- 知識・理解、スキル、姿勢のバランスのよい地球市民資質能力の涵養
- グローバル時代の(総合的な)(異文化)コミュニケーション能力の育成
- 多方面から地域や自国、世界の問題を学び、問題意識や自分の意見を持たせる工夫(教材・題材の選定、教授・学習の方法、授業での「問い」、フィードバック、形成的アセスメント等)
- 内容について、英語を使って自分の考えや意見を発表させる場の保障(主体的な学び)
- 普段から意見交換の場を設定することによる、思考力、交渉力、ディスカッション力の育成・鍛錬

異なる文化圏の人々が話す多様な言語や文化的多様性にも視線を向けさせつつ、英語(外国語)の授業が生徒の豊かな学びを促し、世界の平和と共生に少しでも役立つものであることを願う。

〈引用・参考文献〉

- Byram, M. (2020) *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence: Revisited*. Multilingual Matters.
- 石森広美(2019)『「生きる力」を育むグローバル教育の実践』明石書店。
- 村野井仁(2006)『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店。



題材を SDGs 的視点でとらえ、リアルな社会課題の解決につながるプロジェクト型学習の授業実践

福田理奈 (ふくだ りな)
神奈川県立川和高等学校教諭

◎はじめに

コロナ禍で臨時休校となった2020年4～5月。自宅学習を強いられた生徒たちが学校で学ぶ意義を実感できるような、「学校でしかできない授業をしたい!」とずっと考えていました。また、パンデミックのような予想もしない出来事が起きる世の中を強く生き抜き、世界を変え、自分の人生を実りあるものにできる力を何とか授業で引き出せないかと思い、「教科書の内容をSDGsと関連付け、自分たちに何ができるかを考え発信する」授業スタイルを確立しました。本稿では、SDGsベースの課題解決型学習についてご紹介します。

1) SDGsの概要を知る

まずSDGsの概要について英語で理解するため、各ゴールに関連した英語のQuestions*が書かれた短冊を教室の壁の至る所に貼り、グループで協力して英文を集めるRunning Dictationというワークを行いました。すべて集まったら意味を理解し、それぞれがどのゴールに関連しているのか考えワークシートに記入しました。次の授業では、ペアで各Questionに3択形式で答えるクイズに挑戦。世界にはびこる深刻な問題を解決するために、自分たちに何ができるかを考え発信していくことの重要性を認識しました。

※ Question 例：Q. “How many people live on less than 200 yen per day in the world?” A. “355 million.”

2) 教科書の学習を通して題材について考える

使用教科書では、本文のリスニング・リーディング活動を通じて、「五味五色五法」という伝統的な和食の食材選びや調理法に基づく、日本の弁当文化について学びました。その後、同内容がどのSDGsゴールに関連しているかを考えて、自分の意見を英語で書いたり、ペアで話したりする表現活動を行いました。

3) 企業とのコラボ開始

授業ではGoal3「健康・福祉」、Goal2「食育」に加え、弁当文化を通じて「だれ一人取り残さない」世界を実現するという視点で、Goal10「不平等」に着目しました。いわゆる「食のマイノリティ(アレルギー・ヴィーガン・ベジタリアン・ハラール等)」に分類される方々も食べられる、「食の多様性」をコンセプトとした弁当を開発し、弁当を製造販売する企業へ提案しよう! このように考え、大手弁当メーカー・オリジン東秀株式会社へコラボ学習実施をご提案しました。その結果、今回の取り組みを世界に向けて発信する意図に共感していただき、レシピ作りからプレゼンスライド作成・発表まで全て英語で実施する同社とのプロジェクト型学習がスタートしました。

4) 弁当開発のプロから学び、商品企画へ

まず弁当の内容を考えるにあたり、商品開発の手順や留意点を、オリジン東秀開発担当者様よりご講演いただきました。それに基づき、生徒がグループごとに商品企画書を作成。栄養面だけでなく環境にも配慮した弁当容器の使用等、SDGsの要素を複数取り入れてプロデュースし、英語で発表原稿及びスライドを作成しました(次ページ図参照)。

5) クラス内発表から学年代表プレゼン大会へ

各クラスで5人1チームとなって約8分間の英語プレゼンテーションを実施し、生徒による投票で代表1チームを決定。数日後、学年全員が体育館に集合し、代表全8チームによるプレゼン大会を実施しました。ゲスト審査員のお笑い芸人による特別賞の表彰、オリジン東秀開発担当部長による大賞の表彰もあり、大会は大盛況。講評を踏まえ、改めて「だれ一人取り残さない」世界の実現をめざし、一人一人が行動することの重要性や意義を

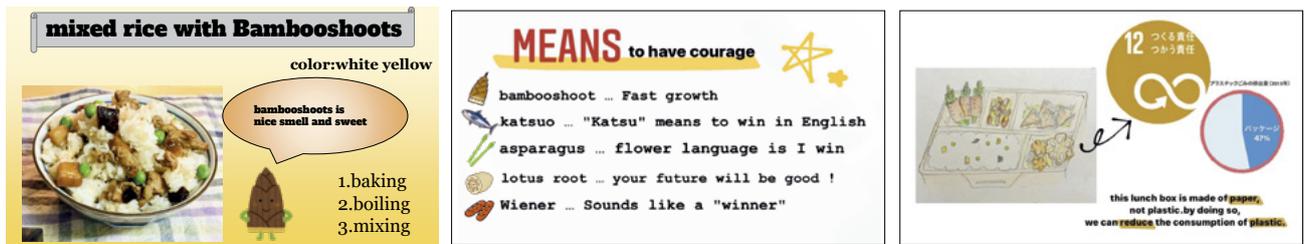


図 生徒が作成したスライド例（大賞受賞チームより抜粋）

認識できました（当日の様子は企業 HP で掲載^{*1}）。

6) 弁当サンプル化からメディアでの紹介

オリジン東秀開発担当の方々のご尽力により、今回特別に生徒が考案した弁当のサンプルを製作していただきました。そして取り組みを取材してくださったケーブルテレビのスタジオにお届けし、番組 MC のウド鈴木さんが目の前でご試食^{*2}。生徒たちは、自ら考案した弁当を実際に食べてもらい、その笑顔を見て、感無量の様子でした。また、何度も発表練習しプレゼン本番に臨んだことで英語力、特にスピーキング力の伸びが実感できた、さらに「誰かを幸せにしたい」という情熱や使命感が芽生えたと、誇らしげに語ってくれました。

◎おわりに

〈生徒の変化〉

生徒の事後アンケートによると、「今回のプロジェクト型学習によって、教科書本文を自分ごととして捉えて読むことができた」、「興味を持って英文を読むことが深い内容理解につながるとわかり、読解力を高めるヒントを得られた」等、多くの生徒が英語が上達した実感を得られたことがわかりました。また、他者の前で発表する際に必要な度胸、聞く側に求められる姿勢など、プレゼンテーションという活動だからこそ得られたものもありました。さらに、メディアでの発信を通じて本校の取り組みを広く世間に周知できたこと、生徒たちが「自分たちのアイデアが一企業を、ひいては世界を動かせる」という自信や自己肯定感を得られたこと、「社会貢献のために英語をもっと上達させたい」という学習意欲を持ったことなど、様々なメリットがありました。

〈学校への影響・保護者の反響〉

プレゼン大会当日はたくさんの教職員が準備に協力してくれたり、見学に来てくれたりしました。またテレビ番組を多くの保護者の方々がご覧になり、「コロナ禍で保護者参観の実施が難しい今、子供たちの取り組みを見

られて嬉しい」など前向きなご意見をいただくことができました。

〈自分自身の気づき〉

私自身、プロジェクト型学習の効果を検証したいと思い、教員研修の研究テーマに掲げました。統計学に基づいた分析により、学習効果を数値的に実証できたため、自信を持ってプロジェクト型学習を継続し、今後もより発展させていきたいという意欲につながりました。また、担当教員間で一連の学習を振り返って課題を洗い出し、これからの授業改善の方針を見いだすこともできました。

今回、企業とのコラボによる大規模なプロジェクト型学習を実施しましたが、職員の快諾と多方面でのサポートなしでは実現しなかったと思います。職員の協力に感謝するとともに、職員間で日々協力体制を構築することがプロジェクト型学習成功の鍵であり、組織的な授業改善の礎であると実感しました。最近では嬉しいことに、教科を問わず複数の同僚から「次は何をやるの?」と聞いてもらえるまでになり、英語科主導のプロジェクト型学習が本校で市民権を得つつあります。「川和の英語が世界を動かす」…そんな日が訪れることを目指し、「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」授業を、今後も実践していきたいと考えております。

information

SDGs に関する他の特集記事は『英語教育』2022年7月号第1特集「時事教材で教室と社会・世界をつなげよう いまだから取り上げたい防災・平和・SDGs」でお読みいただけます。

毎月14日発売 定価913円（税込）



「SDGsの世界へようこそ ——わくわく図書を活用し、 課題探求型学習に挑戦しよう」

秋山容洋 (あきやま やすひろ)
姫路市立四郷学院後期課程



身の回りで起こる様々な問題を「自分事」として捉え、「自分から動ける」生徒を育てたいと考え、SDGs教育を取り入れて早4年が経とうとしています。生徒と共に学習する過程で様々な書籍を読みました。本稿は其中でお勧めの本を「授業入門編」「授業応用編」「実践編」に分けて紹介します。

授業入門編 SDGsという言葉や、テレビ番組やニュースなどでよく耳にします。しかし実際には何のことか分からない生徒も多くいます。そこでお勧めの本は、次の2点です。東京書籍の教科書副読本『SDGsスタートブック』は毎年新しく発行されており、最新の情報を得ることができます。また、東京書籍のWebサイト「EduTown SDGs」(<https://sdgs.edutown.jp/>)から申し込みれば、無料で教師・生徒分を提供してくれるので、まさにSDGsを学び始める時にちょうど良い本です。私はこの本を使い、SDGsについて生徒に簡単に説明をし、共に世界の問題について考えました。

『世界を変えるSDGs』(あかね書房)は絵や図が多く、ぱらぱらとページをめくると、SDGsがどのような内容なのか大体分かるようになっていきます。さらにSDGsを理解するための簡単な物語や、専門家による詳しい解説があり、読者のレベルに応じた様々な内容が載っているので、何度読んでも飽きません。私が特に気に入っているところは、SDGsの17の到達目標それぞれに関するクイズが用意されており、それをコピーして使えるようになっているところです。SDGsをゆっくり学ぶ時間がない先生方にもお勧めです。生徒と共に、あっという間に基礎を理解することができるでしょう。

授業応用編 『グレタのねがい 地球をまもり 未来に生きる』(西村書店)はSDGs目標13「気候変動に具体的な対策を」と関連づけて活用できます。かの有名なスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリがなぜ一人で行動を起こしたのか、またその行動をどのような視点でとらえることができるのか等、分かりやすく説明してくれています。英語の授業でこの本を紹介した後、実際にグレタさんの国連での演説の映像を子供たちに見せ、環境問題を「自分事」としてとら

えた時に何ができるかを考えてもらい、ALTに発表する授業を行いました。生徒にとって同世代のグレタさんが、実際に行動に移し、国連で演説している姿は大きなインパクトを与えました。

『やさしい英語でSDGs! 地球の課題(Global issues)を英語で学び、未来を語ろう!』(合同出版)は世界の様々な問題について、比較的簡単な英語で書かれています。日本語での解説も掲載されています。また、読むだけでなく、QRコードから英文の音声を聞くことができるので、聞くことの活動や、ディクテーション等も行うことができます。英語の勉強をしながら地球の課題を知ることができる良書です。

実践編 調べ学習だけでは知識の定着で終わってしまうので、得た知識をもとに実践することが大切だと思っています。その実践に具体的なアイデアをもらえるのが、『こども気候変動アクション30 未来のためにできること』(かもがわ出版)です。本書ではまず気候変動の問題に触れ、なぜ「今」行動を起こさないといけないかの理由と目的が明確に書かれています。そのため、書かれた30のアクションを実際に試してみようという気持ちにさせてくれます。その内容はどれも難しくはなく身の回りのことなので、抵抗なく挑戦できる生徒も多いのではないのでしょうか。この本で書かれている「続けることが大切」という言葉が印象的です。

『暮らしのなかのSDGs 今と未来をつなげるものさし』(アノニマ・スタジオ/KTC中央出版)でも、日常で一人ひとりができることが書かれているのですが、さらに一步踏み込んで、実際に取り組んでいる人々の意見がまとめられています。様々な地域・年代の人々が登場するため、本書を通して多角的・多面的に物事を考えることができ、自分に合った実践方法を見つけることもできます。学校から社会へ視野が広がるきっかけとなってくれるでしょう。

以上「授業入門編」「授業応用編」「実践編」の書籍を紹介しました。用途に応じてぜひ手に取って見てみて下さいね。



An aerial photograph of a city at sunset. The sun is low on the horizon, creating a warm, golden glow that fades into a deep blue as it reaches the top of the frame. The city below is densely packed with buildings, their silhouettes softened by the atmospheric haze. The overall mood is serene and contemplative.

見たかもしれない風景

東京都庁展望室から。
| 撮影 | 河西 遼



課題解決に向けた方略的取り組み：認知的エンゲージメント



廣森 友人 (ひろもり ともひと)

明治大学教授

本連載では、近年の動機づけ研究で関心が高まっている「エンゲージメント」を取り上げています。その理由は、英語学習に限らず、何らかの成果を上げるためには、やる気（気持ち）だけでは不十分であり、実際に特定の活動にエンゲージする必要があるからです。

私たち教師は生徒の「体」が活発に動いていると（例：授業中の挙手や発言）、活動に積極的に参加している（行動的エンゲージメントが高い：前号参照）と判断しがちです。しかし、手や口は動いていなくとも、「頭」をたくさん使って（“汗”をかいて）、活動に取り組んでいることもあるはず。このように、課題の解決に向け、思考を働かせている状態を「認知的エンゲージメント」(cognitive engagement) と呼びます。ポイントは、ただ闇雲に活動に取り組むのではなく、認知的に深くエンゲージしているということです。

POINT 1

認知的エンゲージメントとは、頭を働かせて、認知的に深く活動に取り組むこと。

認知的エンゲージメントが高い生徒の特徴は、主体的に学習方略を用いている点です。例えば、私が最近行った協働的ライティングに関する調査 (Hiromori, 2021) では、認知的エンゲージメントが高いペアは、どのような作文を書くか事前に計画を立てたり (planning)、わからない単語や表現について互いに質問し合ったり (asking questions)、書いた内容についてコメントし合ったり (evaluating) といった学習方略を積極的に用いていました。

一方、同様の調査において、活動に対して認知的に浅くしか取り組めていなかったペアは、どういった単語や表現を使って、どんな内容の作文を執筆するかといったことではなく、とにかく作文の長さ（ワード数）を稼ぐにはどうしたらよいかを気にしていたり、特定の単語のスペリングに必要以上にこだわっていたりといった様子が見られました。これらのペアによるやり取りが認知的に浅く、それほど深い学びに結びつかなかったことは、想像に難くないはずです。

では、生徒の認知的エンゲージメントを高めるためには、どういったことに注意すればよいのでしょうか？ 興味・関心を高める工夫を取り入れるのはもちろんですが、彼らにより深い思考を促すようなタスクやテストを準備することがとても重要です。

例えば、ディクテーションは英語授業で用いられるタスクの1つですが、聞き取った内容をただ書き出すだけだと、活動が受動的になってしまいがちです。そこで、生徒には短い英文を聞かせ、聞き取れた単語や表現をメモしてもらう、そのメモを参考に、ペアまたはグループでもとの英文を復元してもらう、その後、復元されたものをオリジナルと比較・分析してもらうようにします。このタスク（ディクトグロスと呼ばれます）では、生徒は自身の言語知識を総動員してもとの英文を復元したり、復元できなかったところ（誤ったところ）を確認したりする機会が得られるため、自らの頭を使って、能動的に活動に取り組む必要があります。

テストの形式を工夫することでも、生徒の認知的エンゲージメントを高めることが可能です。村山 (2003) は、テストの出題形式が学習方法に影響を与えることを明らかにしました。具体的には、授業後に繰り返し空欄補充型のテストを受けた生徒は、浅い処理（暗記中心）の学習方略を頻繁に使うようになったのに対して、記述式テストを課された生徒は、深い処理を伴う学習方略の使用が促進されたことを報告しています。この結果は、日頃から深い思考を促すテストを取り入れるようにすれば、生徒の学習方法にもプラスの波及効果が期待できることを示唆しています。

POINT 2

タスクやテストの形式を工夫することで、生徒に深い思考を促すことができる。

参考文献

- Hiromori, T. (2021). Anatomizing students' task engagement in pair work in the language classroom. *Journal for the Psychology of Language Learning*, 3(1), 88-106.
- 村山航 (2003). 「テスト形式が学習方略に与える影響」『教育心理学研究』51(1), 1-12.

Profile

主な著書に『英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』『学ぶ・教える・考える』ための実践的英語科教育法』『動機づけ研究に基づく英語指導』（大修館書店）。学生のエンゲージメントを高めるために日々奮闘中！



英文法の「なぜ」?

朝尾 幸次郎 (あさお こうじろう)

英語研究者

Vol.03

読み方に迷う現在完了形



Q 「完了・結果」と「経験」、どちらに読めばいい?

Crossroads English Communication I の Unit 1 で Rajeep という青年が I have visited almost 20 countries around the world. と言っています。Language Focus では現在完了形を「～したところだ」(完了・結果)、「～したことがある」(経験)、「～してきた」(状態の継続)と説明しています。Rajeep のことばの have visited は「完了・結果」と「経験」のどちらに読めばいいでしょうか。

A どちらでも読むことができます。

現在完了形は次のような言い方から生まれました。

I have a letter written.

(私は手紙を書かれた状態で持っている)

これはその後、〈have + 過去分詞〉と形を変え、「…した状態にある」という意味を表す文法形式になりました。

現在完了形は「完了・結果」、「経験」、「継続」と教わります。これは明治後期から大正にかけ、わが国で定着した現在

完了形の読み方、教え方です。これはわかりやすい説明でした。現在完了形は「～したところだ」、「～したことがある」、「～してきた」のどれかに当てはめれば読むことができます。

しかし、これには欠点もありました。現在完了形は実際には「完了・結果」、「経験」、「継続」にぴったり当てはまらない例も多いのです。そのような例に出会うと、どの意味で読むか迷うこととなります。

ところで、ちょっと驚くのですが、英米の文法書は現在完了形の「完了・結果」と「経験」を区別していません。同じ扱いです。「完了・結果」は「…した状態にある」という意味を「瞬間、あるいは短い時間」でとらえたもの、「経験」は「長い時間」でとらえたもので、本質は同じだからです。

日本語でも『坊っちゃん』読んだ? は人に借りた本などを「もう読み終わったか?」という完了の意味にも、「これまで読んだことはあるか?」という経験の意味にもなります。「完了・結果」、「経験」、「継続」という意味は現在完了形に内在するものではありません。「…した状態にある」という原義をもとに文脈から引き出されてくるものです。

Rajeep の have visited は「完了・結果」と「経験」、どちらにも読めます。あえて区別する必要はありません。現在完了形の読みに迷ったら、「…した状態にある」という原義に戻って考えてみるといいでしょう。くわしくは『英語の歴史から考える 英文法の「なぜ」』(大修館書店)の第19章「現在完了形に have を使うのはなぜ」をごらんください。

Profile

『英語の歴史から考える 英文法の「なぜ」』『同2』が大好評発売中。

Let's Cook!

Bulgogi (Korean-style grilled meat)

ブルコギ

Ingredients (serves 1)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 80g pork leg, sliced or chopped | [Marinade] |
| <input type="checkbox"/> 50g onion | <input type="checkbox"/> 9g soy sauce |
| <input type="checkbox"/> 1 tsp salad oil | <input type="checkbox"/> 2g sugar |
| <input type="checkbox"/> 5 leaves sunny lettuce | <input type="checkbox"/> 1/4 clove garlic |
| <input type="checkbox"/> 5 leaves shiso (green perilla) | <input type="checkbox"/> 3g ginger |
| | <input type="checkbox"/> A pinch of ground chili pepper |
| | <input type="checkbox"/> 1/4 tsp ground white sesame seeds |
| | <input type="checkbox"/> 1/3 tsp sesame oil |

* Using tube-type garlic and ginger pastes can save time.



Directions

- Thinly cut onion. Wash and drain sunny lettuce and shiso leaves. Grate garlic and ginger.
- Combine all marinade ingredients in a bowl. Add bite-sized pork and onion to the marinade. Mix thoroughly with hands. (Alternatively, use a resealable plastic bag. Put the marinade and ingredients into a plastic bag and knead gently.)
- Preheat a frying pan, coat with oil and stir-fry ingredients prepared in step (2) on medium heat until pork is browned.
- Serve sunny lettuce and shiso leaves on a plate. Place meat and onion on the plate. Wrap bulgogi with vegetables and enjoy.

朝鮮半島の代表的な肉料理の一つです。
韓国語でブルは「火」、コギは「肉」を表します。



教育ニュース

2022年 8月	中央教育審議会の作業部会は2024年度から、小学5年～中学3年の英語でデジタル教科書を本格導入するとした中間報告案を了承。現場の混乱を避けるため、当面は紙の教科書も併用。
9月	文科省の有識者会議は、「ギフトド」と呼ばれる特定分野で特異な才能のある児童生徒への支援策を報告書にまとめる。個別に課題を出したり、大学のオンライン教育を受けさせたりするなど「多様な学びの確保が必要」と指摘。
10月	小中高校、特別支援学校におけるいじめの認知件数は61万5351件で過去最多を更新。
11月	全国の公立高校の情報科教員で教科「情報」の正規免許状を持っている割合は8割超。
12月	中央教育審議会は優秀な教員の確保に向け、採用試験の実施時期の前倒しなどを柱とした答申を永岡桂子文科相に提出。 ▶ PICK OUT① / 文科省は生徒指導に関する教員向け手引書「生徒指導提要」を改訂、「ブラック校則」など不合理な校則の見直しや性的マイノリティーの児童生徒への対応策を盛り込む。
2023年 1月	東京都教育委員会は昨年11月に実施された英語スピーキングテストの結果を公表、公立中学3年生ら6万9529人が受験。 ▶ PICK OUT②

PICK OUT

① 教員のなり手不足に歯止めがかからない。文科省が21年度に実施した教員採用試験の実施状況調査によると、小学校教員の採用倍率は2.5倍で、1979年の調査開始以来、過去最低を更新した。中学校は4.7倍で過去3番目、高校は5.4倍で過去2番目に低かった。小中高に特別支援学校を合わせた全体の採用倍率は3.7倍で、91年度と同率の過去最低を記録した。自治体間の格差も大きい。小学校教員の採用倍率で最も低かったのは秋田、福岡両県の1.3倍で、2倍を切った自治体も17県市に上った。最高は高知県の9.2倍だ。こうした背景には、臨時的任用教員が採用されやすくなり、既卒者の受験者が減ってきていることが一因として指摘されている。21年度の小学校教員の受験者は4万636人で、前年度に比べ2812人減ったが、このうち新卒者は256人増え、既卒者が3068人減っている。こうしたことを受け昨年末、中教審はこれからの教員採用などの在り方について答申をまとめ、永岡桂子文科相に提出。文科省は今後、採用試験の時期を民間企業より早めたり、民間企業経験者に面接を中心とした特別な選考を用意したりするなど、教員の人材確保に向け本腰を入れる構えだ。

② 東京都立高校入試に初めて活用される英語スピーキングテストが昨年11月下旬、実施された。都内の公立中学3年生ら6万9529人が受験した。テストは、A～Dの4つの設問からなり、「英文の音読」「絵を見て質問に答える」「4コマのイラストの流れに沿って説明する」「テーマについて自分の意見とその理由を話す」というもので、計8題が出題された。生徒は専用のタブレット端末に問題の解答をイヤホンマイクを使って吹き込む。解答は録音され、都教委から委託された民間企業が採点する。都教委は、採点者について、教授法の資格を有するなど英語教育に関する専門性があり、研修を経て基準を満たした者が採点に携わると説明している。発音やイントネーション、文法の正確さなどを踏まえ、A～Fの6段階で評価。20点満点を4点刻みで点数化し、学力検査(700点)と調査書(300点)を合わせ1020点満点で、合格判定される。都教委は1月にスピーキングテストの結果を公表。最も成績が高いA評価が16.8%、B評価は25.8%、C評

価31.6%、D評価16.9%、E評価8.1%、F評価が0.8%だった。スピーキングテストを巡っては、採点方法や不受験者の扱いなどについて、「公平性や妥当性に欠ける」として反対の声も多い。実施前には、保護者などがテストの中止を求める住民監査請求を実施。都議会の野党会派も反対多数で否決されたもののテストの入試活用を阻止する条例案を提出した。さらに、英語教育などを専門とする大学教授らが採点や運営を民間が担うことを疑問視するなど入試活用の中止を求める要望書を都教委に提出した。実施後には、試験で音漏れがあったと一部で指摘を受け、英語教育の関係者らがその影響を調べるよう要望書を都教委に提出した。都教委は結果への影響はないとの見解を示している。



自著紹介



A5判/208pp.
定価1,980円(税込)
ISBN: 978-4469246605
2022年

『これからの英語授業にひと工夫』

阿野幸一／太田 洋 著

英語教育をとりまく大きな変化に対応するためのコツ

ア: 太田先生、先生方の研修会にお邪魔しての講演のテーマ、最近はどんなものが多いですか？
ヒ: 新しい学習指導要領についての内容や、3観点による評価の方法などに集中していますね。
ア: 「見方・考え方」「目的・場面・状況」などの用語が何を意図しているかなどですね。
ヒ: それに、CAN-DO リストによる授業作り、そして小学校を受けての中高の授業作りも。
ア: そして小中なら一人一台タブレットの活用、高校なら「論理・表現」も多いテーマですね。
ヒ: こうしたテーマについて私たちがいつも話していること、1冊の本にまとめましたよね！
ア: 前著『日々の英語授業にひと工夫』では時代で変わらないことについてまとめましたが…
ヒ: 今度は、新しい時代の英語教育のために、先生方を応援する本を書きました！
ア: ということで、2人で議論を重ね、研修会でのライブ感を大切に書いてのが…
ヒ: この『これからの英語授業にひと工夫』です。ぜひ私たちの会話にご参加ください！

(文教大学教授 阿野幸一／東京家政大学教授 太田 洋)

自著紹介



四六判/176pp.
定価1,430円(税込)
ISBN: 978-4469246612
2023年

『英語教師のための第二言語習得論入門 改訂版』

白井恭弘 著

日々の実践に科学的な視点を

『英語教師のための第二言語習得論入門』の改訂版が出版されました。初版が出たのが2012年ですから、ほぼ10年前ですが、この間、日本の英語教育もいろいろ変化がありました。その現状に合致するように、全体を通して加筆修正をしました。また、ここ数年注目を集めた、大学入試における4技能試験の導入について、第二言語習得・応用言語学の観点から分析をし、新しいセクションを書き加えました。

第二言語習得は、外国語教育に携わる者全てが知っておくべき、科学的な原理・原則です。なぜ教えたことが身につかないのか。どのように教えたら、使えるようになるのか。このような問題についても一定の答えが出ています。もちろん、原理・原則は、現場の状況に合わせて応用していく必要がありますが、本書は日本の現状に合わせて、小学校、中学校、高校、大学・社会人と様々な現場で第二言語習得研究の知見をいかに応用すべきかの具体的な例を提示しています。まだの方は、ぜひ読んでみてください。(ケースウエスタンリザーブ大学教授 白井恭弘)

再読
この1冊

A5判/300pp.
定価3,520円(税込)
ISBN: 978-4469243987
1997年

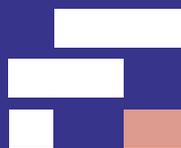
『パーマーと日本の英語教育』

伊村元道 著

日本の英語教育の改革に取り組んだ英国人

大学免許課程の必修科目「英語科教育法」では、さまざまな教授法のひとつとして「オーラル・メソッド」を紹介します。これは、大正末期に文部省(当時)により日本に招聘され、英語教育改革に取り組んだハロルド・E・パーマーが提唱したものです。

本書は、伊村元道氏が、パーマーへの思いを込めてその生涯をたどった労作であると同時に、当時の日本の英語教育の実情を生き生きと描いた、歴史物語でもあります。英語教育改革への強い期待に応えるべく、パーマーは自らの口頭による教授法システムを日本に根付かせようとしましたが、英語存廃論を含む複雑な反応に直面し、実情に合わせた新教授法(=オーラル・メソッド)へと舵を切っていました。この一連の流れには強い既視感を覚えますが、彼が帰国後に再評価されたのは正当なことでありました。「英語科教育法」講義では短時間で説明されてしまいがちな教授法の歴史ですが、本書は、英語教育を歴史的に見ることの大切さを改めて教えてくれます。背筋が伸びる思いです。(獨協大学教授 岡田圭子)



大修館 探究オンライン

ACTUAL
アクチュアル

評価規準例付きの授業展開案!

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	<全体活動> 格言や名言, キャッチコピーについて会話している文章や書かれた文章を読む。	○それぞれの学校や地域の名言やキャッチコピーなどを例に出し, 生徒にとって自分ごとの問題としてとらえられる働きか	□生徒が興味をもって取り組める活動とするための働きかけをしたい。

◀授業展開例

▼評価規準例

観点	重要度	十分満足できる	概ね満足できる	努力
知識・技能	技能	● 分類したもから特徴を抽出し, まとめることができる。	関連する言葉を複数あげ, 分類することができる。	左の評しない。
思考力・判断力・表現力	課題の設定	● 違いが明確になる基準・視点を示すことができる。	違いを示すことができる。	違いがない。
	情報の収集	● 比較分析に必要な情報を収集できている。	テーマに関連した情報を収集できている。	左の評しない。
	整理・分析	◎ さまざまな考えから共通する特徴を見だし, 整理すること	共通する特徴を見いだすことができ	特徴を

探究 無理なく、手間なく
取り組み

探究 学習

ICT

活用

カリキュラムへ取り入れやすい、 2~3コマで扱える教材が多数!

▼ミニ探究・ミドル探究の単元例

- ミニ探究2-6 SDGs入門
- ミニ探究2-8 脱炭素社会構築のアイデア
- ミドル探究4-4 SDGsを自分ごと化する
- ミニ探究 **NEW!** CNN教材×SDGsワークシート etc.

■ 今後さらに「プレゼン型三者懇談」「学校CMづくり」「キャリア・社会探究」といったテーマの教材を追加予定!



お試し用デモアカウントも受付中!

◀ デモアカウントお申し込みフォーム

◆ 価格(生徒用ID) *今後予告なく価格を変更する場合があります。

IDが100以下=ID1つにつき年間1,100円(税込) IDが101以上=個別相談

“アクチュアル”の最新情報はこちらでご確認ください▶

アクチュアル特設サイト <https://lp.actual.quest/>



【開発・運営】 大修館書店 デジタル事業開発部 Tel. 03-3868-2603 inquiry_dr@taishukan.co.jp
【販売総代理店】 紀伊國屋書店 学校教育ICT推進部 Tel. 03-5719-2501 school@kinokuniya.co.jp

大修館英語通信 What's New!

2023年4月15日発行 第5号

編集人:『大修館英語通信 What's New!』編集部

発行人:鈴木一行

発行所:株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島 2-1-1

電話(03)3868-2292(編集部) / (03)3868-2651(販売部)

【出版情報 URL】 <https://www.taishukan.co.jp>

【振替】 00190-7-40504

表紙・本文デザイン: CCK

表紙イラスト: オザワミカ

印刷・製本: 文唱堂印刷株式会社

◎本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。